

### Ⅲ 年度評価

(項目別評価)

- I : 計画を上回って実施 (特に認める場合)
- II : 計画どおりに実施
- III : 計画をやや下回る

(小項目別評価)

- A: 計画を上回って実施(計画の達成度が100%超)
- B: 計画どおりに実施(計画の達成度が90%以上)
- C: 計画をやや下回る(計画の達成度が70%以上)
- D: 計画を大幅に下回る(計画の達成度が70%未満)

→ C※:「計画をやや下回った」項目のうち、新型コロナウイルス感染症の影響により教育・研究等の活動が制限されたため、当初の計画をやや下回ったものについては、「C」と区別して記載。

評 定			小項目別評価					合計
			A	B	C※	C	D	
項目別評価	教育研究	II (計画どおり)	4	5	2	0	0	11
	管理運営	II (計画どおり)	2	6	0	0	0	8
合 計			6	11	2	0	0	19

参考)前年度(R1)評価

評 定			小項目別評価				合計
			A	B	C	D	
項目別評価	教育研究	II (計画どおり)	3	8	0	0	11
	管理運営	II (計画どおり)	1	6	1	0	8
合 計			4	14	1	0	19

#### <小項目別評価>

教育研究等の質の向上に関する項目	
1 教育に関する措置	
(1) グローバル社会で活躍できる人材の育成	B
グローバルリーダー教育プログラムでは、定員を前年度の半数とし、英語実習等の新たな科目を実施するなど、少人数編成による教育内容のさらなる充実を図った。また、国際商経学部グローバルビジネスコースでは、新型コロナの影響により中止となった海外研修等をオンライン形式で実施するなど、オンラインを最大限有効に活用して教育の質を確保するための新たな試みに取り組んでいる。	
(2) 地域のニーズに応える専門人材の育成	C※
工学研究科では、NEDO資金を獲得し、燃料電池・太陽電池関連や、省エネルギーに関する研究を推進している。看護学研究科では、災害看護学における新たなカリキュラムの整備や、関係する5大学による協定を締結した。一方で、新型コロナの影響により、副専攻「地域創生人材教育プログラム」におけるフィールドワークの一部や、地域をフィールドとした学外活動の一部等は、中止や延期を余儀なくされたことから、今後、取り組みを加速化させる必要がある。	
(3) 高度な専門性を有する人材の育成	B
社会科学研究科、理学研究科、情報科学研究科について、令和3年4月の開設に向けて着実に準備を行い、一体的な大学院改革を推進している。また、社会情報科学部のPLB演習では、企業から提供を受けたデータを元に、課題の抽出、データ分析及び課題解決の提案を行い、企業担当者から高評価を得るなど、グローバル化や高度情報化等、社会の進展を踏まえた教育内容の充実を図っている。	
(4) 総合大学の強みを生かした幅広い知識を有する人材の育成	B
遠隔授業により全学部生が履修できる全学共通科目として「情報技術と現代社会」を新設するなど、学部横断的な履修を可能にする学修環境の整備に取り組んでいる。	
(5) 人材育成に向けた教育システムの充実	A
全学情報ネットワーク通信網の高速化によりオンライン授業の円滑な受講環境を構築した。また、芸術文化観光専門職大学の開学にあわせ、情報システムの構築に取り組み、各システムについて統一を図るとともに、法人として情報の一元的な管理・運用を所管する総合情報基盤本部の設置に向けた準備を進めた。さらに、大学独自の授業料免除制度の拡充等により学生生活の支援を充実させたほか、令和3年度のダイバーシティ推進室の設置に向けた準備を推進し、障がい学生等への支援体制の整備にも努めている。	
2 研究に関する措置	
(1) 高度な研究基盤を活用した先端研究の推進	C※
医産学連携拠点としての先端医療工学研究所(仮称)の開設準備、シミュレーション学研究科での「富岳」を活用したコロナ禍におけるマクロ経済への影響の検証等を行ったほか、全国的にもいち早く「新型コロナ関連研究」への支援制度を確立し、多方面における研究支援を推進している。一方で、新型コロナの影響により、工学研究科で計画していた神戸高専の学生を受け入れての卒業研究等は、令和3年度の実施に向け、再調整する必要がある。	
(2) 地域資源を活用した研究の推進	A
自然・環境科学研究所の恐竜化石研究では、新卵種が世界最小の恐竜の卵化石であることを論文発表し、ギネス世界記録の認定につながった。また、環境人間学部の先端食科学研究センターでは、地域の特産品である山田錦を原料としたシリアル等の食品を新たに開発するなどの研究を推進している。	

<b>(3) 兵庫の先進的な取組を活用した研究の推進</b>	<b>A</b>
減災や看護の研究では、理化学研究所との共同開発による統合地震シミュレータを適用した研究や、経時的なビッグデータの分析によるデータヘルス保健戦略の推進など、研究データを活用した先進的な研究に取り組んでいる。	
<b>3 社会貢献に関する措置</b>	
<b>(1) 未来社会を先導する産学官連携の推進</b>	<b>A</b>
企業との連携を進め、得られた知見により新素材の開発を目指す共同研究講座を設置するなど、産業支援に取り組んでいる。また、新型コロナウイルス関連研究事業を兵庫県等と連携して進めるなど、社会ニーズに対応した取組を推進している。	
<b>(2) 大学が有する資源の地域社会における活用</b>	<b>B</b>
公開講座は、開催時期の調整や感染対策などのコロナ対応を講じ、多くの受講者に大学の教育研究活動の成果を公開するとともに、地域連携活動は、事業年度終了後の自治体へのアフターケアにも取り組むなど、関係強化を図っている。	
<b>(3) 次世代の兵庫を担う人材の県内定着など地域の期待に応える取組の推進</b>	<b>B</b>
県内企業マッチングシステム等を活用した地元企業の情報提供、県内の企業経営者等の志を学ぶキャリア教育事業、産学連携キャリアセンターでの産学連携実践講座の開催など、地元企業への理解を深め、就職意欲を高める取組を推進している。	

<b>自律的・効率的な管理運営体制の確立に関する項目</b>	
<b>1 戦略的経営の推進に関する措置</b>	
<b>(1) 社会ニーズの変化に対応できる体制の構築</b>	<b>B</b>
令和3年4月から一法人二大学制となることに対応し、理事会等の運営方法の検討、第二期中期計画変更案の作成に的確に取り組んだ。また、企業との共同研究講座の経費により教員2名を新たに配置したほか、クロスアポイント制度の適用や任期付き助教の処遇改善等による、任用形態の多様化を推進している。	
<b>(2) 県立大学の魅力発信と知名度向上</b>	<b>B</b>
オンライン参加型の国際シンポジウムの開催、英語版HPによる海外への情報発信の充実、研究者データベースの更新のほか、ウェブマガジン「ケンダイツウシン」の開始、県民や企業関係者向け冊子「クローズアップ兵庫県立大学」の発行など、ターゲットに応じた魅力発信の強化を図っている。	
<b>(3) 教育研究基盤の計画的な新規投資</b>	<b>B</b>
姫路工学キャンパスの建替について、第2号館建設工事に着手し、竣工後の施設の円滑な移転に向け、整備担当教員を中心に準備を進めている。	
<b>2 効率的経営の推進に関する措置</b>	
<b>(1) 経営資源の重点配分</b>	<b>A</b>
3研究科設置準備室の設置、先端医療工学研究所（仮称）設置準備室の開設準備、一法人二大学化に伴う体制の見直し・整備等、適正な組織体制の確立に努めるとともに、外部資金獲得状況に基づいた部局特色化推進費の配分を行い、各部局の個性化・特色化を図っている。	
<b>(2) 安全・快適な環境の計画的整備</b>	<b>B</b>
施設整備管理計画に基づき、播磨理学キャンパスのヘリウム液化機の更新や姫路環境人間キャンパス「ゆりの木会館」建物改修工事等を行うなど、教育研究環境の改善を図っている。	
<b>3 自律的経営の推進に関する措置</b>	
<b>(1) 財務運営の改善</b>	<b>A</b>
大型外部資金獲得を目指すチームを支援するための研究費助成を行っている。また「兵庫県立大学基金」では、募金目標を上回る寄付を獲得するとともに、新たに「附属学校応援基金」を創設するなど、特色ある教育を推進するため基金の充実を図っている。	
<b>(2) 自己点検・評価及び情報の提供</b>	<b>B</b>
前年度の評価委員会からの指摘事項について、速やかに学内で共有して改善に向けた取組を進めている。また、研究者データベースを国と連携したシステムに変更するなど、人材情報や研究成果の発信に取り組んでいる。	
<b>(3) コンプライアンスの推進</b>	<b>B</b>
新型コロナ対応では、行動マニュアル、平常時教育への段階的復帰プロセス、BCP等を速やかに作成し、感染状況に応じた運用を図るとともに、ハード面の対策にも取り組み、学内クラスター発生防止に努めている。	